



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

バハレーン情勢：国民対話結果の国王への提出 (28日付 Bahrain News Agency ほか)

7月28日、ハマド国王がザハラールニ国民対話議長より国民対話の結果を受領したと現地各紙が報じている。

1. ハマド国王と国民対話参加者の会合 (28日付 Bahrain News Agency)

- (1) 28日、ハマド国王は、ハリーフア首相、サルマーン皇太子とともに国民対話参加者の訪問を受け、ザハラールニ国民対話議長より国民対話の最終結果を受領した。
- (2) ザハラールニ議長のスピーチと国民対話の最終結果を受領した後、ハマド国王はスピーチを行い、この中で国民対話での合意事項を実施するために必要な手続きを行政府および立法府に指示した。また、公務員、軍人および年金受給者（公務員などからの定年退職者）の給与・年金を増額するよう指示した。

2. ハリーフア首相主催実務者会合 (30日付 Bahrain News Agency)

- (1) 30日、ハリーフア首相は、ハマド国王が国民対話参加者と会談した際に出した指示を実施すべく、閣僚を含む実務者会合を開催した。会合の中で同首相は、公務員、軍人および年金受給者（公務員などからの定年退職者）の給与・年金の増額について、関係省庁と協議し、ラマダン明け祝祭と重なるよう8月分より実施できるよう指示した。
- (2) 国民対話で成立した合意事項について、同首相は、各省庁に調整委員会を設立するよう指示した。
- (3) 同首相は、バハレーンの経済的課題や限りある資源にもかかわらず、国民の生活水準向上を目指すハマド国王の指示と政府の努力を賞賛し、政府として国民の福利向上に努める決意を新たに示した。また同首相は、国民対話での合意は、ハマド国王の一層の改革に向けた意志と国民の発展への要請を反映しており、この合意はバハレーンの改革を新たな時代に導き、より繁栄する将来を確立するだろうと述べた。

3. シーア派政治団体ウィファークの反応

- (1) 28日、ウィファークは記者会見を開催した。この中でウィファークのマルズーク代表団長は、国民対話について、微細な制度改革に留まり、真の改革を生み出すものではないと批判、ウィファークは部分的な改革を求めているのではないとした。またウィファーク幹部の一人、アブドルジャリール・ハリールは、バハレーンの問題の源泉は国民間の宗派や生まれによる不平等と差別の問題であるとして、憲法に謳われる国民平等の原

則の下、国民は平等であるべきだと述べた（29日ワサト紙）。

- (2) 29日、ウィファークはバハレーン北東部のサール地区からディラズ地区に向けて、「国民こそが主権の源泉」と題するデモ行進を実施した。ウィファークは、デモ行進終了時に、「国民の要求は、国民に選ばれた政府（内閣）と立法と行政監視の十分な権限を持つ下院、公正な選挙区配分、公正な司法、国民全体の安全の実現であり、これが実現するまで国民は一步も引かない」とする声明を出した。

4. 英国の反応（在バハレーン英国大使館ホームページ）

29日、バート英外務省政務次官は、国民対話の実施はバハレーン国民が同国における問題を乗り越えようとする最初の一步であり、これを歓迎する、しかしながら、長期的に成功するには、得られた合意を政府や議会がどのように実行していくかにかかっているとする声明を発表した。